



2026年1月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS



新春特別対談

未来に向けた持続可能な社会を創るために



横浜YMCA 総主事
佐竹 博

公益社団法人
2027年国際園芸博覧会協会事務次長
小池 政則

横浜YMCAでは、持続可能な社会と地球共生社会への理解と取り組みを進めています。新春特別対談では、2027年に横浜市で開催される「2027年国際園芸博覧会(「GREEN×EXPO 2027」)」の公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会 小池政則事務次長と佐竹博横浜YMCA総主事に、次世代に向けた持続可能な環境づくりや友好と平和のメッセージの発信を通して、環境にやさしい未来の在り方や未来の子どもたちにより良い環境を残すことについて考えていきます。



気候変動による地球環境の限界が叫ばれる中、私たち一人ひとりの生き方、社会のあり方が問われています。

神奈川県横浜市で2027年3月19日から約半年に渡りGREEN×EXPO 2027(2027年国際園芸博覧会)が開催されます。この博覧会では、単なる花と緑の祭典ではなく、私たちの豊かな未来や地球環境、新たなグリーン社会の実現に向けた取り組みなどが展開されます。一方、横浜YMCAは現在、「ポジティブネットのある豊かな社会を創る」ことを目指して活動を続けています。

博覧会のテーマ「幸せを創る明日の風景」とYMCAが目指す「市民活動を通して共生社会を創る」ことが共に考えていけることがあるのではないのでしょうか。

■プロローグ GREEN×EXPO 2027とYMCA、それぞれが描く未来

佐竹 YMCAは社会教育団体として福祉的な活動を行う市民団体で、全国の各YMCAは地域性を生かした活動を展開しています。よく「セー

フティーネット」という言葉が使われますが、私たちは、人びとが互いに助け合う関係を表現できないかと考え、「ポジティブネット」という造語で表現しています。YMCAは、多様性を重んじ、共生できる社会を創ることを目指しています。ミッションとして掲げる「横浜YMCA-私たちの使命」には、共生する世界を築く、人びとに伝え共に助け合う、自然と人間のいのちを大切に、自由、平等、正義が尊重され、差別や貧困のない平和な世界をつくる、人間性の尊ばれる地球社会をつくる、とあり、に基づき、私たちは水泳や英語学習など、さまざまな活動を通して、多くの人に善意や前向きな姿勢を伝えていくことを大切にしている団体です。この使命は、GREEN×EXPO 2027の理念と関連する部分があると感じています。

小池 国際博覧会は、国際条約に基づき世界で約180か国が加盟し、19世紀から継続して開催しています。その時代の役割があり、先進的な技術や多様な文化を多くの人に知ってもらうよい機会です。昔は今のようにインターネットでなんでも情報が入るといった時代ではなく、国際

博覧会に行って最新技術を見て、学ぶ機会としての場でした。1970年に日本で初めて開催された大阪万博(日本万国博覧会)は、「人類の進歩と調和」をテーマに高度経済成長の中、民間企業のノウハウの展示や世界の文化紹介を行いました。2005年の「愛・地球博」は、「自然の叡智」をテーマに、自然共生の重要性を社会に浸透する役割を果たしました。一方で国際園芸博覧会は、1990年にアジアで初めて開催された最上位クラスの園芸博として「大阪花の万博」が行われ「自然と人間との共生」をテーマにガーデニングブームが起きました。GREEN×EXPO 2027のテーマは「幸せを創る明日の風景」です。喫緊の地球の限界ともいえる環境を背景に、地球規模の課題解決に向け皆さんとともに考えチャレンジしていきたいと思います。日本での国際博覧会の開催は、7回目、5年に一度開催されている「登録博」があり2025年に開催された大阪・関西万博がこれにあたります。登録博の開催の間にテーマをもった博覧会「認定博」も行われ、海洋博(1975年・沖縄)や国際科学技術博覧会(1985年・つくば)が認定博にあたります。今回

ホドス

昨年3月に福島県浪江町にある「希望の牧場」を訪れた。きっかけは、この牧場の働きを紹介したNHKの番組を見たからである▼牧場主は吉沢正己さん。この牧場の牛たちは、肉牛として出荷されるはずであった。しかし、この牛たちは、2011年3月11日に東日本大震災で起こった福島第一原子力発電所の原子炉の爆発による放射能汚染を被っている。放射能汚染を被ったのは、牛たちだけではなく、30ヘクタールにおよぶ広大な牧場の土も同様であった。すると、この牛たちは殺処分をするようにこの行政指導が出た。吉沢さんはこの指導に「あ、この牛たちと最後まで生きることを決められた。すると牛を育てる費用の行政の援助はない。来る日も来る日も各地から寄せられる野菜や果物の残り物による餌やりと糞尿の処理に吉沢さんは明け暮れておられる▼2011年3月には300頭余りいた牛たちは、2024年初頭には185頭になつていく。その間、吉沢さんは100頭余りの牛たちの最後を見守ったことになる。なぜ、そこまでするのか。吉沢さんは「自分は牛飼いだから」という。それは、この牛たちが生きていくのは、放射能汚染の事実があったことを証しており、そのことを忘れてはいけないからである。わたしはこの「希望の牧場」を訪ねて、人は動物の命をいだけて生きているのだから、その命を人間の都合で安易に取り扱ってはいけないのだと教えられた。(ま)

は、1990年の大阪花博以来の最上位(A1)クラスの国際園芸博覧会であり、一都三県では初めての開催です。

佐竹 地球規模の課題解決へのチャレンジはYMCAの目指すことと重なります。

GREEN×EXPO 2027は、自然や共生、先進技術だけでなく未来のことについて、今あるものを題材にされているところに親近感を覚えます。

小池 珍しい植物や江戸時代から続く園芸文化、最新の品種や技術等、多彩な展示やイベント等、見どころが盛りだくさんのためぜひ多くの方に足を運んでいただきたいです。

佐竹 横浜と言えば、海の景色を想像しますが、今回は内陸部で開催することに新たな魅力が発見できるように思います

小池 もともと横浜は、緑が豊かな都市で、丘陵もあります。公園愛護会のように公園や緑に関わる市民活動も盛んです。横浜の魅力を上手く伝えられる博覧会になると思います。

■地球規模の課題解決に向けたアプローチ

小池 GREEN×EXPO 2027を通して地球が抱える課題解決に、どのようなアプローチができるかという点では、現代の子どもたちは学校で、SDGsについて学んでいます。体操をしながらSDGsの歌を歌うなど我々や親の世代にはなかった環境です。世界的に温暖化が進み酷暑が当たり前となり、地球の限界(プラネタリーバウンダリー)が唱えられている中、地球や環境を大切にすることが普通の生活に溶け込んでいるように感じます。

GREEN×EXPO 2027では、企業・団体の皆さまとの共創の舞台として5つの「Village」(Urban GX Village、Craft Village、Farm & Food Village、Kids Village、SATOYAMA Village)を設置します。子どものみならず幅広い世代の来場者が展示や体験を通して地球の課題を一緒に考える絶好の機会になると思います

また、テーマ館や園芸文化館を通じて植物のもつ力や江戸時代を中心とした日本が世界へ誇る園芸文化を紹介します。これは、植物と園芸の奥深さ、不思議さを知ってもらおうというもので、種をまき、育て、花が咲いて、また種ができる…生命のサイクルを通じて植物の力や園芸の魅力に触れていただく機会となります。期間中は、シンポジウムやイベントも開催され、環境に関する市民活動に取り組む方々にも集まっていただき、発表や展示などができる場も作る予定です。

佐竹 来場者が体験を通して自分事として捉える機会となり価値がありますね。

小池 本博覧会の出展・展示を通して、見る・体験・活動するチャンスもあります。知識を詰め込みすぎる場ではなく、楽しみながら体験し、学んでもらいたいと思います。

佐竹 共創の場としての5つのVillageの構想も魅力的です。NPOや市民活動に取り組む団体が発表し、新しいつながりも起こりそうです。

小池 市民活動の方々にどのように関わっていただくかについても議論をして準備を進めています。開催1年前にあたる2026年3月には、募集を開始予定です。

佐竹 子どもたちからあらゆる世代が自分事として取り組むために、GREEN×EXPO 2027には大きな期待を寄せています。横浜は、ズーラ

シアが希少動物の保護・繁殖を方針にされているように、新しいものと伝統を大事にする横浜らしさがあります。GREEN×EXPO 2027も同様に、新しいものと伝統を土台として未来につながる可能性を感じます。

YMCAが目指すところは、世界の平和ですが、その実現のために人を認めること、許し合うこと、相手を理解することがすべての出発点だと思っています。YMCAではプログラムや活動を通してこれからの平和を創る人として子どもたちを育みたいと思っています。いじめをなくそうという取り組みは、日ごろから取り組んでいますが、仲間はずれにする、いじる、からかうなど、いじている側は、いじている感覚はないことが多いです。一方、いじめられたくない、仲間はずれにされたくないために、意に反して同調してしまう人や、孤立してしまう人もいます。地域で見ると、海外につながる住民が多い地域もあり、ちょっとした違いを認め合い、共に生きやすい社会としていきたいと思っています。私は、植物の世界では、いろいろな種があり、助け合っているように思います。雑草は抜けばいいものでもなく、植え合わせも、合うものや合わないものがあります。異なるものが一緒にいると思います。そういうことを体験的に知るチャンスがGREEN×EXPO 2027だと思います。

伝統と地域、多様な価値観、行動変容につながる視点のある団体やイベントを集めていることもとても素晴らしいと思います。その土地にある大事にしないでならないもの、地域性を踏まえ多様な背景のある人びとを受け入れる文化を世界に伝えることは大切です。気候変動という大きな社会の課題に向けた取り組みを例にすると、今は、階段を使いましょう、マイボトルを持ちましょう、LED電球にしましょうと取り組んでいます。地球環境を考えると、さらに行動変容する必要があると思います。YMCAの水泳クラス・英語クラス・留学生を含む専門学校などでは、社会の課題への取り組みを共に考え、自分事として考える機会を提供しています。GREEN×EXPO 2027は、世界の人に出会い、多様性や行動変容を学ぶチャンスが豊かにあると思います。

小池 大阪・関西万博は、165か国・機関が集まり、多くの子どもたちが参加し、知らない国や文化を知り、人と人とのつながりが生まれ、多様性を感じることができました。

佐竹 何か国の出展が予定されていますか。

小池 目標は、約70の国・国際機関としています。2025年12月上旬現在で60を超える国・機関が参加を表明しています。また、2025年8月に開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD9)でも積極的に声をかけました。

■行動変容のきっかけづくり YMCAの体験教育

佐竹 行動変容を起こすためのきっかけづくりについて、横浜YMCAではどのように取り組んでいるかという点、私たちは水泳指導に取り組んで50年以上になりますが、水上安全を第一に考え、約30年、着衣泳の体験を行っています。YMCAの水泳指導の目的は、いのちを失わないために泳げるようになること、危険なところに行かないために、危険なことを知ることとしています。小学校にも出前授業をしています。子どもたちが着衣泳を終えた時に、指導者は「み



小池 政則氏 プロフィール

1983年4月に横浜市に入庁。

2018年4月同都市整備局長。2019年4月同技監(兼)都市整備局長、2022年同技監を歴任。2023年4月公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会参与を経て現職。

んな(衣服)重たかった?」「泳ぐのは大変だね」と話し、「ボールが川に落ちて泳げるからといって、取りに行ってもいけない」と説明します。私たちのさらなる願いは、その学んだことを多くの人に伝えてもらうことです。家に帰ったら保護者にも伝えてほしいのです。



▲親子で着衣泳体験

キャンプでは、ペットボトルやプラスチックのことを考え、子どもたちに水筒を持ってきてもらい、「水筒だったら、洗えば、明日も使えるね」と言います。自動ドアと手動のドアがあったら、手動を使い、1回電気を使わないようにしようと伝えています。その子どもたちが大きくなった時、調べたらこういうことだったかなることが私たちの願いであります。GREEN×EXPO 2027には、そのようなヒントがたくさんあると思います。

小池 利便性が高くなり、結果が求められる時代です。水泳もきれいに早く泳げることを目指しているからです。ペットボトルのことも自分たちが配慮することで地球の環境を大事にしていく生活、便利を求めすぎない考えは、われわれの博覧会も基本にあります。「地球の限界」を考えた時に、自分たちがどのように行動していくか。費用が高くても、配慮されたものを買う、食料品等も手前のものから取るという積み重ねが、持続可能な地球につながる、考えて一歩行動することにつながると思います。

■ユニバーサルデザインと細やかな配慮の必要性

佐竹 ユニバーサルデザインの考え方を基本とした、すべての人に配慮した社会づくりが、少しの配慮によりみんなで一緒にできることにつながります。全国のYMCAでは、障がいのある青少年を応援する全国YMCAインターナショナル・チャリティーランを実施しています。大会委員長のパリ2024パラリンピック競技大会競泳メダリスト富田宇宙さんは、全盲の方です。臨海パークでのチャリティーランの時はマイクを使い、スピーカーの音量を大きくしますが、富田さんは、耳からの情報が多いため、近くで大きい声を出すと、他の音が情報として入らな

くなります。そのためスピーカーの音量を下げると、遠くの人には聞こえない、そこで、皆さんに少し近くに集まってもらう工夫をすることに気づきました。

横浜YMCAの発達支援事業所や学童クラブでは落ち着かない時に向きを変え、静かに落ち着ける部屋を設けています。少しの工夫により多様な人と共に過ごやすくなります。GREEN×EXPO 2027では、さまざまな事情を抱えるご家庭などへの配慮もあるのでしょうか。



▲チャリティーランスペシャルコースのスタート

小池 開催に向けた準備を進める中で重要な指針はあります。例えば、電気は再生可能なエネルギーにすること、アクセシビリティ・ユニバーサルの考え方も大切で、きめ細やかに配慮されたものを作ることが大切です。例えば、展示の仕方も工夫します。健全な人が考える、見えるきれいな展示と、車いすで来られる方の見え方は異なります。どのように展示するのが一番良いか議論しながら取り組み、モデルケースにしていくことが本博覧会の役割でもあります。

佐竹 多様な人への細やかな配慮が醸し出され、緑や花、人にやさしいGREEN×EXPO 2027から多文化共生の視点を学べそうです。ところで会場は4駅からアクセスできますね。

小池 はい。そうです。既存の4駅にエレベーターがあります。大阪・関西万博では、閉演前にはベビーカーの方、車いすの方でエレベーターの前が行列になりました。大阪の場合は、駅の前にスペースがありましたが、こちらの4駅はスペースがないので、知恵と工夫で対応する必要があります。

佐竹 さまざまな工夫する取り組みは、これからの地球社会に用いられると思います。

■体験格差の是正

佐竹 夏の猛暑が毎年厳しくなる中で、気候変動が子どもたちの体験や活動に影響しています。富士山YMCAのキャンプ場は、夏に暑くてテントで眠れない、自然の中にいるのにエアコンをつけないと眠れない状況がありました。スキーキャンプでは、これまでのグレンデでは雪が少ないため、さらに雪深い志賀高原まで行っています。参加者のコスト負担が大きくなり気候変動の影響を受けています。

YMCAは、子どもたちにとって体験の機会は大切であると考え提供しています。5年ほど前に、文部科学省の調査研究報告でも、小学生のところに自然や社会、文化的な体験を多くした高校生は自尊心が高いと報告されています。YMCAがキャンプを取り組んでいて良かったと思いました。

一方で、体験格差、スポーツ格差など、格差が問題になっています。経済格差により、子どもたちの体験の機会が損なわれないようにと、昨夏に富士山YMCAのキャンプ場に海外からのインターンを招きました。YMCAの国内のキャ



▲海外からのインターンを受け入れた富士山YMCA

ンプに参加すると海外の人に出会い、文化を学び、自分の知っている英語で話してみるなどの異文化体験ができるという願いが実現しました。国際博覧会もこれまで知らなかった国の展示や出展があり、その国の文化や伝統に出会えるチャンスだと思います。

■次世代育成とレガシー効果

小池 幼少期の原体験として万博や博覧会を訪れた記憶を大人になっても強く持ち続けている方が多くいらっしゃいます。そのため学校の課外授業などに取り入れていただく検討を依頼しています。一方で、お弁当を広げる場所はどうするのか、モデルの見学コースを用意したほうが良いのかなどの検討を行っています。また、2027年に修学旅行で横浜に来る学校のコースにぜひ本博覧会を入れていただきたいと思います。

佐竹 例えば、遠足へ行く日が決まったら、その国の領事官に学校を尋ねていただき事前学習もできたら交流が深まるというような取り組みはいかがでしょうか。

小池 そのような取り組みも考えられると思います。国際交流として実感できそうです。

佐竹 レガシー効果も期待できそうですね。

小池 会場跡地の一部は横浜市が公園にします。会場には相沢川と和泉川があり、生物の生息環境が豊かで、現況の湿地を生かしています。子どもたちが田植え体験もできると思います。米づくりから体験することにより、食べ物を大切に作る心が育ち、自然とのつながりや共生の意味を知ることができる場になるのではないのでしょうか。

会場となる旧上瀬谷通信施設は、もともと米軍施設の跡地で樹木も多く、移植できる樹木は将来公園となる会場内に移植する予定です。

■ユース世代のエンパワーメントと国際貢献

小池 次世代を担うユース(18歳～35歳)、若者のエンパワーメントについてですが、若者に参加いただきたい取り組みの一つに、ボランティア活動が挙げられます。2027年4月2日時点で満15歳以上を対象に、全体で約1万2千人程度を予定しています。また、会場近くの高校では、道沿いの花壇に花を植える「フラワーロードプロジェクト」を、先駆けとなるボランティア活動として取り組んでいます。

佐竹 YMCAに参画するユースの皆さんは、社会に関心が高く、おそらく、出展される企業さんへの関心を持つ可能性が高いことからワーク

ショップなどを勧めたいと思います。また、留学生が30か国約200人学んでおり、母国語と日本語を用いて、海外から来た方をおもてなしすることができると思います。高校生やNPOの団体は、発表の機会が取り組みの活性化につながると思います。

■未来に向けて 持続可能な社会の創出

小池 GREEN×EXPO 2027が開催されることを多くの人に知っていただき、参加し、体験していただきたいと思います。地球の喫緊の課題を共に感じてテーマである「幸せを創る明日の風景」を多様な視点で共に考え、課題解決に向けて多くの皆様とチャレンジしていきたいと考えています。

佐竹 YMCAの拠点のある地域ではGREEN×EXPO 2027に地域で取り組むからYMCAさんも一緒にやりましょうと声がかかっています。社会の課題解決に向けた取り組みを、共に進めていきたいと思っています。

私たちは子どもたちには世界に行かなくても世界に出会えること、保護者の世代には自分たちの責任でより良く地球を残すこと、この博覧会で学んだことを通して、それぞれの行動変容や自然と人を大事に思う取り組みを共に考えていきたいと思っています。

地球環境や人に関心を持ち、自然、人、社会が共に持続するために一人ひとりが考え、行動する一年になりそうです。

ありがとうございました。

GREEN×EXPO 2027の概要

- 名称：2027年国際園芸博覧会
International Horticultural Expo 2027,
Yokohama, Japan
- 会場：神奈川県横浜市
(旧上瀬谷通信施設)
- 開催期間：2027年3月19日(金)～
2027年9月26日(日)
- 博覧会区域：約100ha(内、会場区域80ha)



▲GREEN×EXPO 2027 メインガーデンイメージ
(2025年12月現在)

YMCA NETWORK NEWS

子どもたちの豊かな成長を願い 体力向上キャンペーンを展開



横浜YMCAでは、2034年にどのような社会になっていきたいかを実現するための「VISION2034」を策定し、取り組んでいる。3つの基本方針のひとつは、「一人一人の存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに生まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくことを掲げ、その働きを強める取り組みを進めている。

全国で行う体力・運動能力調査（スポーツ庁・2025年）の結果によると、小学生では、前年度比で体力・運動能力は、ほぼ横ばいであり、ここ数年大きな改善は見られず、むしろ「回復の停滞または低下」の可能性があるとされている。また、学校時代に部活動やクラブで運動経験のある人は、運動経験のない人に比べて成人後の運動能力が高く、スポーツ習慣も維持している傾向が見られたという。

横浜YMCAでは、すべての子どもたちの豊か

な成長を支える機会として、子どもたちが体を動かすことに興味を持ち、楽しく、継続して運動に取り組む習慣を身に付け、体力の向上につなげていく機会として12月から2月28日まで、県内6か所の健康教育事業を中心に「体力向上キャンペーン」を開催している。

各YMCAでは、「大縄跳び」に親子で取り組む体験や「縄跳び講習会」を行っている。縄跳びは、全身の持久力を高め、心肺機能を強め、俊敏性やリズム感が身につく、筋力の向上につながることで、姿勢を保つ体感も鍛えることができるといわれている。また、腕や脚、目などを同時に使うため「協応性（コーディネーション）」が高まり、神経系の発達が特に盛んな「ゴールデンエイジ（およそ6歳から12歳）」で取り組むと運動神経の発達に効果があるといわれている運動のひとつである。

体力向上キャンペーンでは、運動が苦手な子

でも取り組みやすく、運動の楽しさを体験できるように、中央・北・藤沢・川崎・湘南とつか・山手台・金沢八景のそれぞれのYMCAにて取り組んでいる。さらに、12月と2月に立ち幅跳びの測定を行い、体力の伸びを確認する。



▲親子体操で「によるによるジャンプ」に取り組む



▲縄跳びにチャレンジする子どもたち

ともに生きる社会の実現を目指し 多文化共生を考える講座を開催



横浜YMCAでは「横浜YMCA—私たちの使命」に基づき、多様なルーツや文化のある人びとが互いに認め合い、ともに生きる社会を実現することを目指し「多文化共生を考える講座」を4回シリーズで開講している。

このうち12月13日には、フィールドワークとして神奈川朝鮮中高級学校を訪問し、授業見学や金燦旭（キムチャヌク）校長の話を通して神奈川県内や日本各地にある朝鮮学校の歴史や現状を学んだ。質疑応答や生徒との意見交換を行い、生徒からは朝鮮学校のことをもっと多くの人に知ってもらいたいとの声があった。参加者にとって、実際に朝鮮学校を訪問し、生徒と交流することで、ともに生きる社会の在り方について考える機会となった。

1月24日(土)には、横浜中央YMCAにて「映

画&振り返り」を実施する。多文化共生をテーマとした映画の一部を鑑賞した後、これまでの講座全体の振り返りの時間を設け、参加者同士で意見交換を行う。参加費は1,000円（税込み）。上記のQRコードからお申し込みください。



▲朝鮮学校の歴史や現状を学んだ

横浜市運営受託「子どもが楽しめる体験プログラム付一時預かりモデル実施事業

12月6日・7日に、横浜市庁舎1階アトリウムにて横浜YMCAが横浜市から運営受託した「子どもが楽しめる体験プログラム付一時預かりモデル実施事業」を行った。子どもが楽しい時間を過ごし、保護者にとってもリフレッシュの時間を創出することがねらい。子どもたちは、クリスマスオーナメントづくりやバルーンアート、体操などのプログラムを楽しんだ。利用した保護者からは「自分の時間を確保できた」「子どもが楽しめて良かった」と感想が寄せられた。この事業は3月まで地区センターにて行う。



▲運動あそびに楽しく取り組む子どもたち

横浜 YMCA・YWCA合同祈禱週 世界でともに平和を祈る

世界のYMCA・YWCAでは、昨年11月9日から15日を合同祈禱週として「Jubilee: 150 Years of Prayer in Action. 「ヨベルの年の祝祭; 祈りと行動の150年」をテーマに、横浜、藤沢・平塚、鎌倉・湘南の会場にて行われ、平和をともに祈る機会となった。11月15日に、横浜中央YMCAチャペルにて「横浜YMCA/横浜YWCA合同祈禱会」が行われ、大矢誉生牧師（日本バプテスト横浜教会）から「祈りと願いを神様の愛に委ねましょう」とメッセージがあった。各会場ともYMCAが事務局を担い開催された。



藤沢 藤沢・横須賀・鎌倉で地域の人と ともにクリスマスを楽しむ

イエス・キリストの降誕を祝おうと、横浜YMCAでは12月に地域の教会などと協働し、藤沢・鎌倉・横須賀・横浜市戸塚区・泉区にて市民クリスマスやファミリークリスマスを開催した。このうち13日にカトリック藤沢教会にて「第53回藤沢市民クリスマス」（藤沢市内キリスト教連絡会主催・事務局 藤沢YMCA）が行われ198人が参加した。「平和を愛をすべての人へ」をテーマに梁熙梅牧師（鶴沼めぐみルーテル教会）からメッセージがあった。このほか保育園やアフタースクール、専門学校でもクリスマスを祝う時を過ごした。



♪子育てランド♪ 目指そう! 免疫力アップ

1月は、寒さが厳しくなり、体調を崩しやすい時期であるといわれています。

この季節に意識したいことは、免疫力がアップする栄養を取ることです。体を温めるエネルギー代謝を助けるビタミンB1群が有効で、豚肉や玄米に多く含まれます。また、冬に不足しがちなビタミンDは免疫機能の維持に重要で、鮭や卵、きのこ類から補えます。根菜類や発酵食品は腸を整え、免疫力を高めるため積極的に取り入れたい食材です。

また、風邪予防に欠かせないビ

タミンCは、みかんやいちごなど冬の旬の果物から手軽に取れます。さらに、温かい汁物や鍋料理は水分補給と栄養摂取を同時に満たし、体を内側から温めてくれます。朝、温かい味噌汁を一杯加えるだけでも体調が整いやすくなりますので試してみましょう。

寒さが厳しい季節ですが、家族で温かい食事を囲みながら、心身ともに健康的な新しい年のスタートにつながるよう、免疫力アップを目指しましょう。

(YMCA山手台保育園アルク
栄養士 城 真里)

YMCA NETWORK NEWS

会員大会-ピースフォーラム 2月11日開催 講演会 原爆被災者が語る平和とは



横浜YMCAでは、2月11日(水・休)午前10時から12時30分に、湘南とつかYMCAならびにオンラインにて「会員大会-ピースフォーラム」(主催 横浜YMCA会員事業委員会)を開催する。フォーラムの準備は会員事業委員会(古賀健一郎委員長)が中心となり進めている。この「会員大会-ピースフォーラム」は、YMCA維持会員、プログラム会員、YMCAに関心のある方を対象に、「平和」について共に考え学ぶ機会として毎年開催している。今年は、講演会、広島ピースキャ

ンプ、国際ナショナルユースピースセミナー2025の報告、維持会員紹介をはじめとした横浜YMCAの報告が行われる。

講演会は、戦後80年を迎え、「原爆被災者が語る平和とは」と題し、原爆被災者から当時の体験を聞き、過去から学び、現在を見つめ、未来への平和をつくるためにできることについて考える。

会員事業委員会では、YMCAの会員が社会や地域の課題をともに考え、多様な視点から平和

の意味と大切さを問い直す機会としたいとしている。参加費は無料。6面QRコードにて2月8日(日)までにお申込みください。問い合わせは、横浜YMCA会員大会事務局 Tel 045-662-3721



▲昨年の会員大会-ピースフォーラムに参加した皆さん

上海・光州・ホノルルYMCAと 平和へのメッセージ交換

一人ひとりの人権が尊重され、公正で平和な世界の実現に向け、横浜YMCAでは、11月の1か月間を「平和月間」として取り組みを行った。

今夏、横浜で開催された三都市YMCA会議にて、上海YMCA、光州YMCAとともに平和へのメッセージの交換に取り組むことが確認された。互いのYMCAの子どもたちや会員が「平和のハト」にメッセージを記入し交換した。

このほか語学事業にて交流のあるホノルルYMCAからもメッセージが届き、YMCAの会館にディスプレイした「ピースツリー」(平和の木)に掲示し、平和への想いを共有した。このほか、

アフタースクール事業や保育園などでは平和に関する絵本の紹介や読み聞かせなどを行った。



▲上海YMCAの子どもたちもピースツリーに「平和のハト」 ▲光州YMCAから届いた平和のメッセージ

光州YMCA長期研修スタッフ ジャンチャムセムさんが帰国

2025年1月から横浜YMCAで長期研修を行っていた光州YMCAスタッフジャンチャムセムさんは、12月18日に研修を終えて19日に帰国した。

ジャンさんは滞在中、日本語学習とともに、横浜YMCAの各事業の運営管理や地域活動、国際交流などについて学んだ。横浜YMCAの他にも各地のYMCAや協働する団体を訪問し、YMCA運動のあり方について学びを深めた。帰国を前にジャンさんは「横浜YMCAで学んだ多くのことを、光州YMCAでの働きに生かしたい。これまで続けてきた光州YMCAと横浜YMCAのつながりをさらに深めていくために、懸け橋となる働きをしていきたいと思います」と研修を振り返った。



▲帰国したジャンチャムセムさん

ひとかき

総理事 佐竹 博
プログラム

日本YMCA同盟出版の「YMCAプログラム開発ガイドライン」には、YMCAで行う活動について「現状の社会からより良い社会への過程にYMCAプログラムが関与するものである」と説明がされています。YMCAスタッフのある大先輩からは「YMCAではイベントではなくプログラムを行いますよ」と教えていただきました。

「イベント」と「プログラム」はプログラミング関連では「出来事や動作」と「イベント」を受け取って処理するための仕組み、催事では「催し物、発表会など行事そのもの」と「行事を成功させるための具体的な進行内容・時間割・タイムテーブルなど」と区別されるそうです。YMCAの行事は参加者を集めてどこかへ行く、何かをするという行事が目的ではなく、それを通して何を伝えたいか、気づいてほしいかの目的があり、目的を達成するための手段として企画するものであると理解しています。

「YMCAプログラム開発ガイドライン」には、YMCAプログラムの原理に7つの原則が挙げられています。①人を育てているか②組織を育てているか③地域を育てているか④文化を創り出しているか⑤新しさや主張を持っているか⑥継続性があるか⑦ベネフィットがあるか・楽しいか。これらを実施の自己規定とし、事後評価の視点としてもしています。横浜YMCAでは多くの活動を行っています。すべての活動が「横浜YMCAー私たちの使命」を実現することを指し、「VISION2034」という中期ビジョンを活動の中に具現化しようとしています。

プログラムを通して、会員の皆様とともにより良い社会と未来を目指し、平和を育てていく1年としたいと思います。

今年もよろしくお願ひいたします。

Topics 140years of HISTORY

金沢八景ステーション開設 vol.22

横浜YMCAでは中期計画の一つに活動拠点の拡大を掲げ、当時、横浜市のニュータウンとしての街づくりが進んでいた金沢区に、1986年6月、横浜YMCA13番目の拠点としてYMCA金沢八景ステーションを開設しました。中・高生の進学教育プログラムや小学生のサッカー、キャンプ、英会話教室、さらに夏には富岡プールを会場とした水泳教室などを実施し、親子の触れ合いを通じて家族関係を豊かにすることを目指してプログラムを展開しました。この新拠点では運営面においても従来とは異なり、女性スタッフを中心とした体制を採用し、新しいタイプのYMCAづくりを目指しました。地域に根差したYMCAの形成に向けた試みがなされました。この施設は活動開始から23年を経て再開発計画が進められ、2010年3月に近隣の土地へ移転し、金沢八景YMCAとして新しく生まれ変わりました。また同月、YMCAの認可保育園としては12番目となる金沢八景YMCA保育園が金沢八景YMCAに併設する形で開設しました。



▲YMCA金沢八景ステーション(1986年)

現在は、地域における子育て支援や生涯学習の拠点として、保育・学童保育・語学教育・生涯学習などの事業を通じ、幼児から成人に至るまで多様なプログラムを展開しています。

FLASH NEWS

横浜YMCAでは、今年もタイ・バンコクYMCAパヤオセンター、カンボジアYMCAの子どもたちに向けてクリスマスカードを送る呼びかけを行い、学童クラブや保育園の子どもたちを中心に作成したカード計185枚が寄せられた。パヤオセンターの子どもたちからもクリスマスカードが届き、各YMCAやプロテクト・ア・チャイルド支援者に届けた。12月5日・10日には、アフタースクール事業全クラブの子どもたちが、パヤオセンターの子どもたちとオンライン交流を行い、タイ語・日本語であいさつを教え合い、互いに質問し合うなど交流の時を持った。



11月29日に、三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにてウクライナの人のびとを対象に、リフレッシュデイキャンプを行った。海岸の散策や焼きマシュマロを作り、近況を語り合った。また、平和のハトのカードにそれぞれの願いや思いを記し、ともに平和を願う時を過ごした。子どもたちは自然の中で遊び、リフレッシュの時を過ごした。

ポジティブネットをひろげよう

今月のよくなる一歩

いじめのない世界を 目指そう

(Caring 思いやり)

ワイズコーナー

つるみクラブのパワー

横浜つるみワイズメンズクラブ

2025年11月21日に行われた横浜つるみワイズメン&ウィメンズクラブの例会に出席した。東日本区におけるワイズメンズクラブの現状分析の卓話があった。田中博之ワイズ(元アジア会長)が講師を務め、つるみクラブの話になった。現在、平均年齢の高い順から見てみると、我がクラブは4位(51クラブ中)にランクされる。「ただごとではない」現実がある。しかし、最近のクラブ実績は、10月のチャリティーラン・オンライン大会で、歩数968,617歩(15日間の5人の合計)となり、18チーム中5位となった。横浜北YMCA、鶴見中央・生妻地域ケアプラザの3か所のバザーでは、前日の準備から参加し、がんばった。ボランティア活動はいくつになっても活動できる。(横浜つるみワイズメンズクラブ 久保勝昭)

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンター・アンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンター・レザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター・鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■発達・教育支援 発達障がい理解講座
 日時 1月14日(水)午前10時~10時45分
 会場 藤沢YMCAまたはオンライン
 内容 「自己理解」を進めるための取り組み
 参加費 無料
 後援 藤沢市教育委員会、藤沢市、横須賀市教育委員会、横須賀市社会福祉協議会
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ 横須賀YMCA

イベント

■子ども支援基金チャリティーコンサート
 日時 2月1日(日)
 時間 午後2時開演・午後1時30分開場
 場所 戸塚区民文化センターさくらプラザホール
 入場料 全席自由/
 前売り 大人2,000円 高校生以下1,000円
 当日 大人2,500円 高校生以下1,500円
 ※チケット取り扱いは、戸塚区民文化センターさくらプラザ4階受付または湘南とつかYMCA1階。前売り券が完売した場合は当日券の販売はありません。

主催 湘南とつかYMCA運営委員会
 後援 戸塚区、戸塚区民文化センターさくらプラザ(指定管理者 アートプレックス戸塚(株)/運営 株式会社共立)
 問合せ Tel 045-864-4768

■会員大会 ピースフォーラム
 日時 2月11日(水・休)
 午前10時~午後12時30分
 会場 湘南とつかYMCAまたはオンライン。
 対象 YMCA維持会員、プログラム会員、YMCAに関心のある方。
 テーマ 戦後80年 原爆被災者が語る平和とは
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ 会員大会事務局
 Tel 045-864-4768

○平和についてともに考えてみませんか。皆さまのご参加をお待ちしております。
 ■「ノーベル平和賞から私たちが紡ぐもの」
 日時 1月17日(土)午後2時~4時30分
 場所 ココスカ・ベイサイド・ポケット
 講師 和田征子さん(日本被団協事務局次長)
 参加費 前売1,000円
 当日1,200円
 主催 和田征子さん講演会実行委員会
 後援 横須賀市・横須賀市教育委員会・(公財)横須賀市生涯学習財団
 問合せ YMCAコミュニティサポート
 Tel 080-9528-3502

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会
 日時 1月8日(木)午前10時30分~
 会場 湘南とつかYMCA 4階教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会
 日時 1月21日(水)午前10時~11時
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 申込み QRコードから事前にお申し込みください。
 問合せ Tel 045-663-0676
 ■金沢八景子育て練習室
 日時 1月17日(土)・1月31日(土)
 午前10時~11時30分(全2回)
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 子育て中の保護者
 内容 お子さんへの声かけなど、コミュニケーションの練習室
 問合せ Tel 045-780-3205

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校
 日程 1月10日(土)・24日(土)
 午前10時~午後2時~
 内容 入試説明・学校見学
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441
 ■横浜YMCAスポーツ専門学校
 日程 1日10日(土)・24日(土)
 午前10時30分~12時/午後2時~3時30分
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990
 ■横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科
 【オープンキャンパス・学校説明会】
 日時 1月10日(土)・24日(土)
 午前9時30分~11時30分
 【オンライン学校説明会】
 日時 1月8日(木)・22日(木)
 午前10時~12時
 1月13日(火)・27日(火)
 午後2時~4時
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-661-0080
 ○各校の入学試験はHPをご確認ください。

平和を願いクリスマスカードづくりみどりクラブ

12月に行われたみどりクラブでは、クリスマスカード作りを行いました。ウクライナの方たちはそれぞれの家族や大切な人へ向けて平和のメッセージを記し、みどり色や赤色などの折り紙やシールを使って色鮮やかなクリスマスカードを作りました。また、ウクライナのチョコレートを食べながら、横浜市内で行われているクリスマスイベントや三浦YMCAで行われたリフレッシュデイキャンプの感想を語り合い交流を図りました。



「お米一合運動」ありがとうございました 1,614合をフードバンクかながわへ

横浜YMCAでは、10月1日から31日に「お米一合運動」が行われました。各YMCAや横浜YMCAの指定管理・運営受託施設などにて呼びかけ、総計1,614合(約242kg)のお米が寄せられました。11月14日にフードバンクかながわにお米を手渡しました。この取り組みは、職員によるSDGs委員会が中心となり、今回はSDGsの169のターゲットを周知しようと、169kg(約1,126合)を集めようと展開されました。多くの会員や地域の方々との協力により、目標を上回るお米が集まりました。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介いたします。
 ▲ノルウェーYMCA音楽グループが来日し日本とノルウェーの青年が「TEN SINGコンサート」でひとつに(1991年10月)





My Y Story
192
日本語の学びと多くの出会い
先生の支えにより成長を感じる

横浜YMCA学院専門学校 日本語・文化研究科
KARNATAK SUHASINI
(カルナタク・スハシニ)

私とYMCAとのつながりは、横浜YMCA学院専門学校日本語学科に2024年10月入学したことから始まりました。私は日本の文化や歴史、漢字に関心があり、日本に住んで日本語を学びたいと思っていたところ日本で働くインドの大学の先輩からYMCAを勧められました。

入学してすぐは、日本語もよく分からず、恥ずかしがりやの性格もあり、教室では後ろの座席に座っていました。ある時、担任の先生に私が書いた漢字をほめられ、とてもうれしく自信につながりました。昨年7月に開催されたスピーチコンテストも先生から、背中を押され出場し、優勝することができました。以降、私は性格が変わったように、関心のあることに前向きにチャレンジすることができるようになりました。学校のこと以外にも生活などの相談も親身になってアドバイスをいただく先生方と職員の方に感謝しています。

YMCAでは日本語の学びに加えていろいろなことにチャレンジして新しい出会いやつながりがたくさんできました。私は専門学校のある横浜中央YMCAのウエルネススポーツクラブで、毎日トレーニングのサポートをしています。今年3月に専門学校を卒業する予定ですが、社会人になっても、先生方が私を支えてくださったように、今度は私が後輩を支える側になれるようYMCAのボランティア活動に取り組んでいきたいと思っています。

前向きで明るくなったと言います。今年の3月に専門学校を卒業する予定ですが、社会人になっても、先生方が私を支えてくださったように、今度は私が後輩を支える側になれるようYMCAのボランティア活動に取り組んでいきたいと思っています。



▲チャリティーランで出場したチームの皆さんと(2025年10月 右から2人目)